

JR津田沼駅南口開発の進展に伴う児童増加対応について 地域住民対象説明会 議事録（要約）	
開催日時	平成25年12月15日（日曜） 13:00～14:30
場 所	谷津公民館
出席者	市瀬学校教育部参事、小野寺教育総務課長、島本学校教育部主幹、山口市街地整備課係長、浅野目青少年課長、小澤こども部主幹

島本主幹 （JR津田沼駅南口開発の進展に伴う児童増加対応について、資料に基づいて説明）

【質疑応答】

質問者 本日の説明会の趣旨は、今までの住民の皆様の意見を反映して、学区を変えずに谷津小をそのまま増設するということが大前提に対する意見をお聞きになる場だと思うけれども、私、この場に出るのは初めてなので、基本的なことを3つほどお聞かせいただきたい。

1点目、56学級のマンモス校において健全な学校運営って可能なのか、今の時代において。高度経済成長時代に育った我々からしてみれば、あるいは、その親の世代からしてみれば、それは当然だったけれども、今の時代、他の同じ習志野市内の学校と比べて、質の問題とか含めて、56学級でやるということに関してどうお考えか。

2点目。これは、今回、学区を変えない、学校は1つで増設するという考え方しかないのか。お金がかかることになるけれども、学校を分けて新設するという考え方、今まで一切出てこなかったのか。

3点目。これから増設するといったときに、基本的には、60年たったら建替えとか、設計から5年かかると言っていたけれども、こういう緊急事態において、例えば、5年を4年にするとか、少しでも早めるとか、そういうことが可能なのか。

回答者 まず1点目、56学級規模の学校運営が健全な学校運営としてできるのかどうかという御懸念について。

これらについては、56学級規模、これは全国にまだ例としてはない。今、現状としては、兵庫県あるいは船橋市というところが普通学級が44、43という規模というのはある。

そういう中で、私どもとして、56学級規模となった際に懸念するということについては、学校内での安全、あるいは、基本的に、小学校の教育課程は、各クラス単位、これは通常どおり行うが、そのクラスと学年間の交流であったりとか、そういったところがさまざま出てくるのかなというところと、あとは、特別教室での教育課程の実施、そして、校庭を使った運動量の確保というところの懸念と、先生方と子どもの関係性という部分も、他校と比べると、若干というところはあるのかなと想定をしている。

これらについては、基本的に、ハード面での対応と、あと、ソフト面の対応、こういった部分については、教育委員会がそこをバックアップしていくというような形の中で、推計等実数を見極め、必要に応じた手当てをしていくというように考えている。

2点目の、学区を変えずに増設ということだけで、新設をするという考え方は出てこないのかという御質問について。

新設にするといった場合には学校用地という形の、一定程度まとまった面積が必要になってくる。そうした時に、この谷津エリアにおいて用地がないという中で、限られた私どもが管理を任されている学校敷地で考えてきたというのがこれまでの経過になる。

3点目の工程については、一般的な工程として、改築には5年はかかるという中で、そういった工事工程等については、できる限り早くできるような対応、これは、心がけなくてはならないというように考えている。

質問者 全国にも例を見ない56学級だけれども、健全云々じゃなくて、物理的に本当に運営可能なのか。今までに例がないわけだね。

回答者 物理的に運営が可能かといったところについては、現状の中で学校運営を可能なようにしていくというお答えをせざるを得ない。学校運営上問題のないような形で、私どもは必要となる措置、これは講じていかせていただく。

質問者 56学級、最大56学級と言われているけれども、これは仲よし幼稚園跡地に建つものを含まないという前提で、奏の杜地区の中にこれよりほかにも高層マンションが建つ予定があるよね。そこも全部含めての56学級と判断してよろしいか。

回答者 今回、大きく児童増加というのは奏の杜地区である。こちらのほうの計画人口が7,000人、2,800世帯、これまでの大きなところで721世帯のザ・パークハウス津田沼奏の杜の入居傾向と同じような形で、同様の傾向である

うというところで、未就学児が多く入居してくるという捉え方で推計をした結果ということで、750世帯の仲よし幼稚園跡地以外の全てを推計した結果が56学級である。

質問者 前回の説明会にも出席して、新校舎が建てられないということはよくわかった。これに関しては、今さら言ってもしょうがないと思うので、別の観点で申し上げる。

まずは第一中学校に谷津南小、向山小、谷津小の小学生が行くけれども、一中は大丈夫なのか。一中の用地を、例えば、隣に小学校を建てるなどして何かできないのか。

2つ目は仮に、谷津小で2,000人抱えるのであったとしても、物理的には可能、先生の加配もされるという御発言だったけれども、さすがに、校長先生は1人だよ。校長先生が1人とすれば、児童会長も1人だよ。運動会をやれば1位になる人間も1人、例えば、小学校に1人出さなければいけないということに対して、1人しか出せない、2,000分の1の倍率になるわけ。子どもたちが、例えば、1位になる経験とか、児童会長になる経験という経験数が少なくなってしまう。そういうところで、競争がいいのかどうかは別としても、代表になる経験が倍率的に難しくなるという点からすると、私は、役所は、物理的には一つの小学校だったとしても、実際には2つの小学校に分けたらどうかと思う。以前、今でこそ、幕張総合高校が、北、西、東で高校が3つ分かれていた。今、3つくっついて1つの高校になったけれども、あそこでいくと、高校が3つ、ほとんど隣接している。今から、例えば、谷津小学校の敷地を谷津東小、谷津西小みたいに分けて、小学校の校長先生も1人ずつ置いて、全ての行事も全部分ける。だけれども、どこか校舎のある線からこっちが西、こっちが東、あるいは、町域で分けてもいいと思う。

そのような形をして、事実上、運営を2つの小学校としてやり、しばらくしたらまた一つの小学校に戻すというようなアイデアが、今すぐにどうのということもないだろうから、一つのお考えとしてどこかで検討していただきたいと思う。

そういうことを、物理的な観点じゃなく、本当に、実際運営上可能なのかどうか。先生の数を幾ら増やしても、校長先生の数は増やせられないはずだから、校長先生の数を増やすアイデアとして何かできれば。

最後、やはり、谷津小に通える親は、向山小、津田沼小学校にも通える距離感の親は多いので、谷津小の数減らしに協力するじゃないけれども、谷津小は混んでいるからやめようという親に対して、向山は特認校だから入れる

のかもしれないが、津田沼小学校へ入れる可能性の道も候補としてお考えいただきたい。

回答者 一中の対応、こちらについては、従前の説明会の中にも一中の教室がどうなる、生徒数がどうなるというようなところを包含した中で、第一中学校については、今回の児童増に伴って、以前の推計では全く教室が足りなくなるということはなかったというところであるけれども、今回の増加ということの中では、36年度以降に教室が一定程度不足してくる可能性がある。その後の教室の数的には必要というところで、今回、第一中学校区の変更ということはせずに、増築をする対応の中で、第一中学校は対応しようというように現段階では考えている。

その上で、一中の敷地で、例えば、学校をとというような御意見であるとか、もう一つ、仮に谷津小学校の敷地で56学級といったときの校長先生、これは間違いなく一人になるというところへの御懸念、そして、今回の推計どおりにいったときの運動会、これをどこでやるか、仮に、2,000人となった年度はどこでやるかという、これも大きな問題として出てくるというように考えている。

谷津小の敷地で2校にするという考え方は、校庭面積も隣接に限るという今回の児童増加の対応であっては許容範囲というところがあるかと考えているけれども、1校新設といった場合に、校庭が、校舎と校舎という形に、校庭がその分割愛された状況の中で新設校という扱いがとれるかどうかということもある。

そういった考え方で、今いただいた御意見なども含めて、仮に、56学級で進めていくといったときの全体配置計画等を含めて、今後の検討の中で斟酌させていただくというようなことで受けとめたいと思っている。

特認校について、距離的な面から津田沼、向山、これは通えない距離ではないのではないかという御意見の中で、既に、向山は御案内のとおり特認校なので、市内どこからでも通っていい学校という形にはなっている。あわせて、津田沼小学校が近いんだから、そこに入ることはできないかどうかということの御提案だが、津田沼小学校については、前回の説明会でもお話をしたように、建てかえ後の校舎として24の保有教室、そういう中で、30年度を超えたあたりから24学級になるという推計の推移が既にあるので、その辺から、現段階で津田沼小学校を特認校とするということはちょっとなかなか現段階は難しいだろうというふうに考えている。

質問者 今、特認校の話が出たので、恐らく、向山へ行かれる方、今までよりは増

えてくるかもしれない。その場合、通学路の問題があると思うけれども、今、津田沼小に行けたとしても、一緒に通学路、通学路自体がはっきりしないし、同じ方向に向かうお子さんが少ないということで、いろんな面で不安がある。特認校があって、そこに行く子がふえていかざるを得ない状況があると思うけれども、通学路の件、どういうお考え方かをお聞かせいただきたい。

回答者 基本的に通学路は登下校する際に子供さんは往復 40 人という、往復で 40 人というところを学校のほうで確認した上で指定をしているという流れになっている。

そういう中で、今ほどの特認校としての通学路ということだと思うけれども、特認校の子どもさんたちが、恐らくそれぞれ通う経路が違おうだろうという中で保護者、そして、学校という連携の中で、そこに危険があれば、それは危険を回避するための改善という形での要望への取り組み、これは進めることになると思う。

それと、保護者と学校が協力した見守りという体制は、主要道路にはなってくるとは思うけれども、そういうセーフティウォッチャー的な、学校、父兄ともども取り組んでいる学校はある。

質問者 谷津幼稚園も結局移転しないことになれば、当然のように谷津幼稚園児も増加、かなり通うお子さんの数も増えると思うけれども、その点についての対応について全く今回説明されていないことが1点目。

それから、グラウンドが狭くなるために近隣公園の一部を校庭として使用するという話だけれども、約 7,000 m<sup>2</sup>とさっきおっしゃっていたけれども、今の近隣公園の約3分の1くらいだよ。そこでは当然のように、体育の授業とかはできると思うけれども、運動会はとても無理だよ、2,000 人規模になった場合。

子どもさんたちが、学校の卒業日とかで1週間休み、長期、長目の休みだとか昼休みになった場合に、わざわざそのところの、大きい道路を渡って子どもたちは行く、そこへ行って遊んで帰ってくる。それは、当然、幼稚園もそれと同じようなことになると思うけれども、その辺についての安全面、それから、あとは、校庭が近隣公園の一部を使うとなれば、半分ずつというふうに判断したけれども、こういう周りの人たちとの境界が全くない、今聞いている計画図からすると。そうすると、そこに対する、子どもたちに対する責任の問題、例えば、全く囲われていないところに関係ない第三者が入ってきた場合どうするのかとか、それに対するウォッチングをどういうふうにするのかというセキュリティーの問題が全く未定であるということ。

それから、あと、もう一つ、体育は近隣公園の中でやったとして、運動会を、全くそこではできないということをちゃんと明示しないと、7,000 m<sup>2</sup>を借りたらできるんじゃないかという、7,000 m<sup>2</sup>というイメージが湧かないけれども、それは実際には、例えば、現に谷津小の校庭がこれだけの人数でこれだけの広さで、今の現状の人数でやっていくにはこれだけスペースがあると、それに対して、2,000 人になったらこのくらいの規模があるということをもうちょっと数字的に、具体的に挙げないと、イメージがすごく湧きにくいので、その辺をきちっと挙げていただきたいと思う。

回答者　まず、谷津近隣公園を借りた際の境界がない中でのセキュリティーという点については、囲いをその都度して借りるのかどうかということとを詰めなければいけないところではあるけれども、基本的に、そういったところに学校の教員の目でセキュリティー対応するのか、あるいは、その安全性を確保するために教職員の加配が必要なのかということになってくると思っている。

そういった意味からすると、そういう人の目は必要になってくるだろうということで現状は考えている。ただ、今のところ、道路を横断して行くまでの動線のお考え、こういった部分も、恐らく、市費による教職員あるいは現行の教職員での対応ということの中でどう安全性を確保するかということを考えなければならない。

運動会については、もちろん、谷津近隣公園ではできないと考えている。そういう中で、じゃ、どこで、どのように観戦するかということについては、その段階で、学校長がどのように行事を組むかということもある。そういう中で、教育委員会はその学校側の意向、こういった部分を尊重する中で、対応としてどこでやることができるかということ、そういった段階では考えることになってくるということで、現状において2,000 人規模になった際にどこで運動会をやるかということは考えていかなければいけない事項であると考えている。

それと、面積。7,000 m<sup>2</sup>というところの、数的な明示だけれども、これも、現在の谷津小学校の校庭が約6,500 m<sup>2</sup>で、今回、谷津近隣公園を借りるのが7,000 m<sup>2</sup>で、今後の展開の中で、谷津小の校庭は一時校舎あるいは新設校舎というところで狭隘化してくる。極端に言えば、今、約900 名の子どもで、今も都市計画道路との兼ね合いでちょっと割愛されているけれども、6,500 m<sup>2</sup>もない中で、教科活動、体育をやって、それが仮に2,000 人になったときには、谷津近隣公園7,000 m<sup>2</sup>と、現時点での工程フローでは、その段階にはグラウンド整備も行っている。

回答者 それでは、谷津幼稚園の件について。

まず、奏の杜の地区だけ最大どのぐらい見込んでいるかということであるが、奏の杜のお子様だけ、4・5歳児ですけれども120名程度、最大時になるのではないかと想定をしている。

ここの幼稚園の考え方けれども、幼稚園は今、市域を3つに分けて園区を区分している。この奏の杜・谷津の対象になる園区というのは、谷津幼稚園、それから、向山幼稚園、それから、津田沼幼稚園、そして、藤崎幼稚園、こちらも基本的には園区になる。しかし、現実的には、藤崎をお使いになる方はいらっしゃらない。

こうなると、向山、それから谷津、それからあえて津田沼ということになると思うが、おのおの210名の定員を用意している。今の推計上では、向山、谷津、それから、奏の杜の最大時のときに、谷津だけでは恐らくあふれてしまうということも想定されるが、向山幼稚園を活用することによって、こちらの需要については十分対応していくことができると想定をしている。

そして、園庭の問題だが、今は小学校の校庭を部分的にお借りしているという状況であるので、当然、小学校の校庭が狭くなる、もしくは、使えない時期が発生するということについては、同じく近隣公園を使用させていただくことになると思っている。

ただ、そういった具体的なことについては今後検討していくが、今、小学校の安全性、セキュリティーの問題と同様に、幼稚園の子どもたちが道を渡って近隣公園を使うことになるので、当然、人によるケアですとか、それから、一時的に何か区分ができるような何か設備ができるのかということも含めて、とにかく、安全・安心に渡っていただけるように工夫をしまいたいと考えている。

質問者 今、谷津小学校へ通学する奏の杜の子どもたちというのは、奏の杜の中の普通の住宅街を歩いて通学していると思う。そこは今のところ道路が完全に、新しくできた道路が、地区が、道路閉鎖されていて通り抜け道路とならないようになっていて、居住者のみしか入れないようになっているので、歩道のないところを普通に子どもたちが通学時間帯に歩いて行くことができているけれども、例えば、それが将来的に、あと、多分一、二年ぐらいだと思うが、道路が開通するようになると、当然、あそこは通り抜け道路になる可能性が高くなった場合に、子どもたちの通学の時間帯に対する安全性の問題、歩道が全然ないところを今子どもたちは通っているので、そのときに、例えば、一時的に、そこは時間帯によったら、通学時間帯について、道路の

侵入停止みたいなことをするかということは、将来的には考えているか。

回答者 今、道路の将来の利用の仕方ということでお話しいただいたが、現段階ではそこまで具体的な協議というのはされていただけていないのは確かである。

ただ、今後、道路が市に移管され、市で管理をするような形になってくるが、当然、警察であるとか、消防なんかも安全面も含めて一緒に協議しているので、そういった部署と協議をするような形をとり、時間的な規制であるとか、そういったものが可能かどうか検討してまいりたいと思っている。

質問者 先ほどから 56 学級とか 2,000 人という話をしていたけれども、それは、今の予測では 10 年後の話だよ。今、就学中の、通っている子はもちろん、これから入る子も全然関係ない話だけれども、むしろ、それまでの間に、運動場が変わったり、あっちの校舎を移ったり、いろいろ子ども目線で見ると、いい迷惑、不安定な状況がすごく続くと。子どもは適応力があるといいながら、せっかく谷津小が今持っているよさというところが、そういったジブシー生活みたいなことで損なわれることというのはすごくあると思う。

そういう子どもの立場から見た不安定な状況での課題意識、あるいは、実際、どういうふうに対策を講じていくことは検討なさっているのか。

回答者 隣の船橋市葛飾小学校、ここが今、全国で一、二番を争っているところで、恐らく、約 1,500 名の児童がいる。そうした中で、1,500 名の中で、校庭は 8,000 m<sup>2</sup>で、谷津小より若干広い程度であった。それで、ここも新校舎を建て、工事したときは、少し残った校庭の中に作業用の車両が通るための道をつくり、3年間ぐらいものすごく狭かったみたいであった。

ただ、そのときには、隣の葛飾中学校のグラウンドを借りたということで、そういうのがあればいいなと思っていたけれども、そこを借りられたのも、1 学期、2 学期、3 学期、それぞれの学期で 30 時間だったということで、その間は狭い中で、朝一番で学活みたいに利用して、まず、スポーツの基本である体力保持のために 15 分間のマラソンとかを全員でやったとか、そういう話があった。

そうした中で、今、葛飾小学校の教務主任とか教頭、校長先生にいろいろお話を聞きましたら、一番問題だと言われているというのは、やっぱり、保護者の皆様とか地域の皆様の、要は、協力あってのものだということで、葛飾小学校の表門のところって、非常に狭い。歩道も 60 センチ程度しかなく、それと、また、バス通りでもあるので、通学のときもかなり危険ということ

で、それと、中学校も一緒にあるので、中学校が今 1,200 人ぐらい、合わせて 2,500 ぐらいの子どもたちが一挙に押し寄せてくるような学校なんだけれども、通学路に先生たちが出て、気をつけているという中では、事故は起こっていない。

質問者　今までいろいろお話があった中で、今、出てきた話も入ってくるかと思うけれども、方向性として、学区は変えない、今のままの線で基本的にやっていくんだという気持ちはすごくよくわかる。

制約もいろいろあるかと思うけれども、どうも、資料を見たり、お話しを聞いたりしている限り、何かいろいろありそうだけれども、頑張りますというような感じにしか聞こえなくて、例えば、そもそも学区を変えないでこのままの状態でマンモス校として運営していくんだということにこれだけ質問が出ているということは、それなりに皆さんリスクを感じているんじゃないかなと思う。

教育委員会として、それらに対して、第三者の目を含めるかどうかとなるけれども、客観的に、定量的な形とかで、何かメリット・デメリットみたいなものを評価したりして、こういう結論が出たから学区を変えないでやっていくんだ、もしくは、やっていないとしたら、こういう結論が出たから、やっぱり、学区を変えるみたいな、そういった評価というのはしているのか。

それと、保護者や地域の声を踏まえた中で、そういった声を非常に大事にしているのはありがたいと思うが、そのアンケートをとった対象というのも偏りがあるんじゃないかなと私は思っていて、この場に出た人間とか、もしくは、現在通っている人間に関しては声を聞いている。

ただ、人数が増えてきて本格的に影響を受けるのは、やっぱり、10 年後がピークである。その時点で子どもが小学校に通っている家庭だとか、もしくは、通う可能性のある地域全体だとか、そういった、もうちょっと広い目線でアンケートをとらないと、評価の対象として偏りがあって、結果に余り信頼性がないんじゃないかと非常に心配している。

なので、大きくは、定量的な評価の結果があるのであれば公表していただきたいと思っていて、あるのか、ないのか、議論したのか、していないのかをお聞きしたいというのが1つ。

2点目は、アンケートに対して、中身が心配なので、物理的なものとしては、できれば、もう一度とり直していただきたい。広く、もう少し対象をきちっとカバーするようなレベルでアンケートを、声を聞いていただきたいなと思う。

回答者　まず、アンケートだけれども、基本的に今回の児童増加対応という中で、少なからず、御関心を持つ方々がそれぞれの説明会にはお越しいただいたというところである。

それで、かつ、資料でいうところの一番最終面、学区対応に関する問いだけれども、その就学状況別というところの中では、未就学児を持つ保護者様、そして、小学生を持つ保護者様というところが比較的多くいらっしゃるという、この小学生を持つというところは、恐らく谷津小学校のところでカウントした数だろうとは思っているけれども、比較的未就学を持つ方々にも関心を持っている中でいただいている。

その辺を受けて、今回、2回目の対応についても、電話等問い合わせ等の中では、これから幼稚園をどうしようかというような御家庭の方からの問い合わせがあったり、そういうところの中での今回2回目の説明をこのようにやりますというところでの関心、こういったところの中で、また改めて、本日もお配りしているアンケート、この1つには、今回の学区を変えないという、これに対する評価をいただけるのか、いただけないのかというところは、改めて確認をさせていただいている。

そういう中で、範囲を広げるといったときには、どこまで、どういう形という形までを考えなければならないということで、一定程度、その統計的には、こういった機会に御参加いただいた方々から集約することで、幅広い意見とまではいかないのかもしれないけれども、一定程度、皆様方がお考えになるということは集約できるんだろうと考えていて、改めてその意向を確認するということについては、今、この対応に当たっては考えていない。

～閉会～